

2016 年度年間テーマ — 「いい人生ったね」と言えるように—

「永六輔さんを偲んで」

十四年前の五周年記念に、永六輔さんをお呼びした時のこと。

開口一番「今、美味しいお茶をいただきました。しかし、ホスピスの勉強をしている人たちなんだから、何をお飲みになりますか？つて先に聞かなきゃだめよ」とニヤリ。

「相手が何をして欲しいか、何を望んでいるか、それをするのがホスピスでしょ。それは、普段の生活に近いリラックスした環境にいると、できるんだねえ」。

二人の娘さんと共に、奥さまを自宅で看取られたばかりの体験から出た切実な言葉でしょう。

あれから岡崎にもホスピスができ、在宅看護も今や主流になってきました。時の流れを感じます。変わってないのは「相手が何をして欲しいのか、何をして欲しくないのか」を感じとる人の存在なのではないでしょうか。

慌ただしく手帳を見て、今日の予定を頭に入れる私の朝。そこに「リラックスした環境」の文字はない。

超多忙な永さんは、私のつたない礼状にさえ、すぐ直筆で返事をくださった。リラックスした環境の存在は、時間があるなしではなく、今、ここに、「愛」を込めることができるかだと気づかせていただいた。

ご冥福をお祈りいたします。

橋詰清子

勉強会

28 年 6 月 25 日（土）10：00～12：00 会場：愛知病院地域研修室

テーマ「緩和ケアの役割」橋本淳緩和ケア部長 参加者 26 名

橋本先生には 5. 6 月の運営委員会で話し合った質問事項を事前にお渡ししましたら、当日先生から 6 ページもの資料をいただきました。

〈愛知病院が行っている緩和ケア〉は

- ① 緩和ケア病棟
- ② 緩和デイケア
- ③ 在宅医などとの地域がんサポートチーム
- ④ 緩和ケア外来



在宅から入院まで継ぎ目のない緩和ケアのできる愛知病院を地域に広げてほしいと言われました。

〈入院患者さんのその後〉は、2015 年入院患者 301 名中、死亡退院は 194 名 生存退院 91 名。退院先の内訳は自宅が最も多く、病院内の転院、他病院へ転院、介護老人保健施設への転院と続きます。

〈ホスピス病棟と緩和ケア病棟の違い〉は、橋本先生から、緩和ケアとは生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族に対して、痛みやその他の身体的問題・心理・社会的問題・スピリチュアルな問題を早期に発見し、的確な評価と対処を行うことによって、苦しみを予防し和らげることで生活の質を高める所である、と説明があった。

緩和ケア病棟の医療者もホスピスケア病棟の医療者も同じ思いで患者さんとその家族の方をケアされていることが分かりました。

〈ボランティアの役割〉については患者さんには普通の人として接し、家族の方には何気ない声かけ、支え、病院に対しては相互理解と協同を望んでいます。

（鈴木千代美）

【感想】

- ・ 貴重な機会をありがとうございました。（橋本淳）
- ・ 愛知病院にはこんな素晴らしい先生が見えることを、地域の人に知らせたいと思います。
- ・ ①緩和ケアはガンと診断後、介護する者の心のケアも含めてすぐ申し込むことができるかと初めて知りました。
- ・ ②在宅で診てもらえるお医者さんをまず見つけることが大切。
- ・ ③勉強会に参加して将来の病に対して不安を抱えるより、まず積極的に学ぶことが不安解消の源と思いました。
- ・ 貴重なお話を聴かせていただきありがとうございました。
継ぎ目のない緩和ケア・・・とても良いことだと思います。
率直な話も心に深く残りました。
- ・ 久しぶりに参加させていただきました。友人のご主人様が最近がんになられ愛知病院に入院手術されました。しかし手術でも取り切れなく抗がん剤治療を終え退院されましたが余命1年と宣告されました。その間担当の先生が説明の際、ひざまづいて「取り切れなくてごめんなさい」と頭を下げられたそうです。その先生なら自分の命を預けようと思ったそうです。
医者と患者の間における最高の関係だろうと感激してお聞きしました。こんな先生がおみえになる愛知病院に自分も入院しようと思いました。
- ・ 緩和ケアの10年の歩みがよくわかりました。ボランティアをさせていただいていますが死の直面の人にもお逢いしていますが自分自身よい人生だったなあと思える生き方をしたいです。
- ・ マッサージの話を聞いて、患者の想い、医師の想い、ボランティアの想いがよくわかります。多少の違いはあっても「生きること」に対して思いやりを持って患者さんに対して一番良いことを進んで行うことのように思います。
- ・ 人に「会う」「話す」「聞く」考えるばかりでなく行動すれば、たくさん「宝」が見えてくる。
- ・ ①地域緩和ケアセンターの役割、ボランティアの役割を初めて詳しく知りました。
- ・ ②「なぜ生きるか」とスライドに移しだされた時、とても考えさせられました。
- ・ ③先生が「死を意識しながら生きる」と日々考えるとおっしゃられた言葉に心がとまりました。
自分の生き方、仕事への取り組む気持ち、まわりの人への心遣い、・・・など。全てが変わると思いました。
- ・ ④イギリスの「ドロシーハウス」日本でも広めることができるか？
文化の違いは大きいと思いました。
- ・ 先生のジレンマもよくわかり、色々勉強になりました。
- ・ アンチエイジングの思想がはびこり、不死を願う人が増える中、生物体としての人間の細胞はいつか滅びる（？）という考えを忘れてしまった、否、覆い隠している現実を見る。緩和ケアは人生哲学を作るところではないかしら？あの世の質問があったがそれを宗教と結び付けていく思考の流れにも私は不可解！医学の進展とそれに関わる人の“人間観”の深まりが更に更に求められる時代だろうか。ふと徳永進医師を思い出す。
- ・ この機会を作ってくださった先生に感謝しています。お互いの理解がとても大切なことを思われました。また機会があればよいと思います。
- ・ ホスピス病棟のチャプレン(スピリチュアル専門家)の存在は大きいのかもしれないと思いました。



- ・今日初めて橋本先生のお話を聴かせていただけてよかったと思います。

現在の病棟ボランティア活動を聞いた時、渡辺先生の時代よりきゅうくつな物になってきていると思ったのですが、橋本先生の緩和ケアに対する思いは渡辺先生のそれと大きく変わるものではなく、いろいろな葛藤の中でお仕事されていることが分かったので、これからどんどん話し合い良い緩和ケアがされていけるのではないかと思います。



- ・「人生を全うする」という事はどういう事なのか私も答えがわかりませんが今日の会で色々な人の話が聞けて私にとってまた一つ得をした気がします。
 - ・今日の勉強会は中身の濃いものでした。病院側とボランティアが同じ道を進むことができたなら、患者さんにとってはこれ以上の幸せはないのでは・・・。
 - ・ホスピスケアについて改めて深く学ぶことができました。ホスピスケアに宗教を進んで取り入れることは日本では少し難しいように感じますが前向きに考えていただけると嬉しいです。
- 近い将来光ヶ丘高校（もちろん仏教も）と連携していけたら素敵だなと感じました。



- ・今は健康で過ごさせてもらっている私にとっての「緩和ケア」。自分の生き方、家族への向き合い方を改めて考えさせられました。毎日わがままで自分勝手な自分。
- これからも「本当にいい人生だった」と言えるように毎日を大切に過ごしたいと改めて思いました。

- ・緩和ケア病棟ができて 10 年の橋本先生の講演ぜひとも拝聴したくて本日参りました。緩和ケア病棟、そしてデイケアセンターは 15 年前がん患者の切望でした。運営は大変な部分もあるかと思いますが頑張っていていただいて本当に感謝です。
- ・緩和ケア病棟の 10 年のあゆみ現状そして先生の正直な気持ちが聞け感激しました。

緩和ケア病棟ボランティアの報告

ティーサービス・アロママッサージ・季節の模様替え・楽器演奏
毎週金曜日 1:30~4:30 愛知病院緩和ケア病棟
アロママッサージ 毎週火曜日 1:00~3:00 練習第4金曜日 11:00



〈七夕会〉7月1日(金)14:00~緩和ケア病棟ラウンジにて七夕会が開かれました。今年は看護師の方々が趣向を凝らし、初めての試みとして夏祭り風に行いました。水風船釣り、ボール投げ、金魚すくい、それぞれをコンパクトに用意して、各テーブル、ベッド上の患者さん、ご家族の元までゆかた姿の看護師さんが運びました。“何色が良いかな？”と迷いながらの風船釣り、真剣な眼差しで的を狙うボール投げ、かわいいプラスチック製の金魚 アヒル イルカ等々、工夫を凝らしてコップいっぱいに入れた金魚すくい、聞こえてくる笑い拍手！懐かしい夏祭り風景がそこにはあり皆さんの楽しそうな笑顔が印象的でした。ボランティアとしては、ゆかたの着付け ピアノ演奏 ティーサービスで参加させていただきました。

(かき氷はラウンジにて皆さんの前で作らせていただきました)
最後に“七夕さま”と“きらきら星”を合唱しお開きとなりました。

「少しでも永く二人でいられますように」「星に願いを祈り、祈るだけです」等々、笹飾りの短冊が傍らで揺れていました。(神尾弘美)



〈アロママッサージ〉は、お部屋に入り 30～40 分程の時間を患者さんと共有させて頂いています。そこにある時間は、すやすや休まれことへのお手伝いであったり、さすっていることで少しの間だけでも痛みが緩和されたりするようです。時には昔話に花を咲かせたり、ご家族への想いを語られたりもします。患者さんが気持ち良さそうにしているのを見ているご家族から、優しい笑顔を頂くこともあります。付き添われてるご家族へのマッサージをすることもあります。その時の患者さんの笑顔はご自身がマッサージを受けている時よりも遥かに優しく穏やかです。病気になりいろいろな想いがある中で、ご家族がお互いに思い合う姿や笑顔に、私たちが癒されてるのだと感謝しています。



そして、ある患者さんに言われた「指からあなたの想いが伝わるわ」と、もてなしの言葉を忘れないようにこれからも患者さんと同じ時間を共有させて頂こうと思います。（柴田由紀子）

“手縫い”の報告

愛知病院・市民病院・国際病院・施設へ雑巾や依頼された品を作り届ける。
・第2月曜日 10:00～12:00 愛知病院地域緩和ケアセンター・各自宅

春にまた一人、長い間手縫いを一緒にしてきた仲間が引越していかれました。どうか新しい土地に慣れ、お元気でお過ごしくださいますように。手縫いの会ももう続けていくのが難しいと思っていましたが、みなさんが呼びかけてくださったお陰で新しい方が3人加わってくださり、もう少し頑張ると背中を押されたような気がします。



曜日変更のお知らせ

出席者の都合により、2016 年度から第2月曜日 10:00～12:00 に変更しました。（勝川俊子）

“つどい”の報告

患者・家族・遺族（誰もが遺族）の集まり
第3木曜日 10:00～12:00 事務局（橋詰宅）



体調を崩してしまい、みなさまにご迷惑をおかけしています。
私のために祈ってください。
みなさまと分かち合ったことは、私の糧となっています。（山崎 明美）

◆再度：「私のたまため箱」終了のお知らせとお願い

「私のたまため箱」は、2016 年3月をもって増刷を終了した。希望する方にコピーして差し上げてください。特に P13～15 の「私の意思表示書」は今後私たちにとって必ず必要となるはずだ。

◆ご寄付をありがとうございました。

石川すみ江さま 河合恵子さま 小久保かつさま 宮崎嘉子さま 匿名さま

◆あとがき

夏です。私の大好きな花火の季節です。
一瞬で消えてしまう花火。その美しさで人を喜ばせ、楽しませ、感動させてくれる。私は認められなくて多くを語りますが、花火はドーンとひとこと言うだけ。そんなところに私は憧れます。花火のようになれたらいいなあ。（永谷美雪）

